

NHK SPECIAL
スペシャルパンデミック 激動の世界 第5回
米中対立新局面 世界はどう変わるのか
12月6日(日) <総合テレビ> 午後9:00~9:49

世界的に蔓延した新型コロナウイルス。世界が一丸となって立ち向かわなければ克服できないこの正念場で、リーダーとなるべき二つの大国、アメリカと中国が対立を激化させている。番組は、台湾、ブラジル、東ヨーロッパ、そして日本など、米中対立が先鋭化する現場からルポする。

世界最多の感染者を抱える米国トランプ政権は「中国が世界に感染を拡大させた」と批判。ファーウェイやT i k T o kなど中国企業の排除に乗り出すなど圧力を強化した。一方、いち早く新型コロナウイルスを“克服”した中国は“コロナ外交”で各国への支援を開始。世界に影響力を広げる一方、南シナ海などで軍事的な活動を活発化させている。両国の対立は、貿易摩擦のレベルから安全保障やイデオロギーのレベルまで深まり、世界は再び冷戦時代のように分断されようとしている。

米中は、ワクチン開発でも先陣争いに没頭。アメリカが脱退を表明したWHOも十分なリーダーシップを発揮できず、先進国がワクチンを先物買いで囲い込む「ワクチン・ナショナリズム」と呼ばれる状況が生じている。このままでは発展途上国にはワクチンが行き渡らず、パンデミック収束に暗い影を落としそうだ。

11月のアメリカ大統領選挙では、民主党のバイデン氏が勝利をほぼ確実にした。新大統領のもと、ワクチン開発などで一国主義から国際協調へと転換し、悪化した中国との関係も改善することを世界は期待している。しかし、対立の根本には世界の覇権を巡る争いがあるだけに、道のりは楽観できない。

国際秩序はどう変化していくのか、その中で日本が進むべき進路はどこにあるのか。うごめく世界中の現場からのルポと、知の巨人たちとの対話を通じて“新冷戦”の行方を考える。

キャスター：大越 健介 記者主幹

出演：マレーシア前首相マハティール氏 国際政治学者イアン・ブレマー氏 など

NHK SPECIAL
スペシャル**パンデミック 激動の世界 第6回**
科学立国ニッポンの危機
12月20日(日) <総合テレビ> 午後9:00~9:49

新型コロナウイルスが突きつけた、さまざまな課題を検証する「パンデミック 激動の世界」。第6回は、人類をウイルスの脅威から救う“科学の力”がテーマだ。

科学立国を唱え、免疫学や創薬は“お家芸”とも言える業績を数々挙げてきた日本。しかし、今回のパンデミックでは、ワクチンや治療薬の研究開発競争で米・欧・中に後れを取っている。発表される論文も海外勢より明らかに少なく、存在感の低下が指摘されている。

日本の科学の現場で、今、何が起きているのか？番組では、新型コロナの薬やワクチンの研究開発現場を徹底取材。問題は、科学力の低下か、それとも世界で勝負できる成果につなげられない科学戦略の立ち後れか？深く探ると、10年以上前から指摘され、積み重なってきた、研究環境や予算の配分をめぐる「根本的な課題」が浮かび上がってきた。

日本は“科学立国”としての地位と誇りを取り戻すことができるのか。大越健介キャスターとともに読み解いていく。